

会員のば

短時間でできる おいしいお料理

札幌市医師会
美しが丘病院

佐藤 光男

内容は自由ということで、最近うまくいった短時間で作れるお料理を3品紹介します。

1. 豚肉とキャベツの炒め物

米久の豚肉の味噌煮込みとゆきのしたキャベツを刻んで炒め、黒トリュフ塩、エスビーのリンキ（オイスターソース）、醤油、黒こしょうで味を調える。

2. スパゲティミートソース（二人前）

日清ママミートソース1缶を温めたものに米久のジャーマンフランク（ソーセージ）2本を切って、炒めて入れる。次に日清ママスパゲティ1.5mm 200gを茹で、水気を切ったものにボスコのエクストラバージンオイルを少量絡め、2つに分けて大皿に盛る。先に作ったソースをかけ、すりおろしたパルジャミーノレジャーノ（48ヵ月以上熟成）を、スパゲティが見えないくらいたっぷり振りかける。

3. 肉じゃが

前沢牛すき焼き用（A 5）400gですき焼き（関東風）を作る。汁は多めにする。普通にすき焼きを食べ、具を少し残してブルゾンちえみ風に1晩寝かせる。翌日、美深産の北あかりを入れ、ぐつぐつ煮込む。

いずれもかなりおいしいので、くれぐれも作りすぎにご注意ください。

二度目の西條

札幌市医師会
北央病院

坂牧 純夫

機内誌で何気なく見たこの記事が、心に残っていたのだろうか？

研究会で四国松山を訪れた時、ここまで足を伸ばしてみたくなった。7月の太陽が眩しい中、少々早くたどり着いたので、近くの書店で時間を潰し、開店の12時少し前に店先に車を止めた。西條そばK。冷たいおでんも置いてあるような店であった。紹介されていたせいろを当てに来たのだったが、カウンター上の写真がやけに涼しく美味しそうで「絹かわなすの冷やかけおろし」を注文した。数分後、衝撃を受けたのは、そばのうまさもさることながら、辛汁を十分に染み込ませた絹かわなすの素揚げであった。冷やかけの甘汁との絶妙な味のバランスの上に、茄子の力強いうまさも最上まで引き出されていた。ムムム。

絹かわなすは日本在来種で、古来より品種改良されることなく、西条地区だけのうちぬき水で自家消費用に栽培されて来たそうで、生産量も少なく、その名のおり皮も絹のように薄く柔らかく傷つきやすいので、全国流通していないとのこと。しかし、JA西条を通じてお取り寄せ可能と知り、毎年7月から9月初めまで、種々の調理方法で楽しんでいる、絶品茄子である。

夏の茄子といえば、これまで泉州の水ナスの漬物に親しんでいた。馬場なすにもチャレンジした。昔、大阪泉州にある某有名蕎麦屋を訪問した時、最高の水ナスのぬか漬けですと出されたものは、私にはほとんど生かと思われるようなものであったが、本場ではこれが美味しいとするのだと思っていた。京都の漬物屋Yの茄子の漬物も美味しいと思っていた。当然の帰結として、絹かわなすの漬物はどうだろうと思うに至り探した結果、Y食品に辿り着いた。取り寄せてみて驚いた。絹かわなすの一本漬け。わずかに包丁で切れ目を付け、手で割いて器に盛った身のしっとりした瑞々しさ。こちらも季節限定ながら毎年楽しんでいる。

何年かして、出会いの原点となった西條そばKのホームページを訪れた。そこには、「絹かわなすの冷やかけおろしは地元のなす農家さんの“昔、このなすは輪切りにし炒めて醤油落として食べたもんよ、つゆにつけても旨いんよ”という言葉ヒントに試行錯誤の末、完成させましたが、これほど旨いものがなぜ今までなかったのかと思うぐらい素晴らしいものができました。これは自画自賛でなく食文化を担う一介のそば屋としての新しい発見でした」。そして、「このレシピは同業者も含めて配布致します」と書いてあった。ムムムム。

一はイワシで、二はニシン

札幌市医師会
札幌平岡病院

浜島 泉

まず、次の数え唄のようなものを読んでください。おおむね私の好きな海産物を並べてある。書いた順番は韻を合わせただけで、あまり意味がない。ダブっているものもあり、片寄っている所もある。概して後ろのものより前のものが好みという程度である。

一はイワシで、二はニシン、三はサンマで、四はシシャモ、アンコウ、アブラコ、シャコ、ナマコ、ボウダラに鮭、ロウソクボッケ、ハッカク、タコに、ソウハチガレイ、ヤナギノマイに、カスベ、エビ、ハタハタ、キュウリ、ヒラメ、ブリ、サバ、アジ、昆布、クロガレイ、いくら、タラコに、キンメダイ、ます、うに、カキに、マグロとろ、チカ、イカ、キンキ、ホヤにソイ、花咲、ケガニ、タラバガニ

イワシからシシャモまでは、堅い骨が少ないので、頭から尾まで残すところなく食べられるというのが特徴で、食べる前に背びらきで3枚にさばいて、背びれ、胸びれ、頭をすべて噛みしめて、砕けないところ（顎の骨）だけ捨てる。身と内臓を食べた後、骨を炙って噛みしめて二度味わうのである。2枚におろしたホッケやサンマの干物は、2度焼きしなくても全部食べられる。

高級魚と言われるものが後に来ている。先に来ているものは独特の味わいがある。臭みがあるので、嫌う人もいる。近年は保存輸送の技術が発達したので、季節外れの冷凍物を食べることもあるが、昔は、骨や肉が柔らかいものは、腐りやすいので、足が早いとか言って、その季節でないと食べられなかった。

庶民用とか、安物とか、ネコでもまたく、などと言われたが、それはともかく、鮮魚を賞味することは、季節を象徴して幸せである。出回る季節のものを食べると、元気が出ると言われる。そもそも旬を味わうのが好きなので、生の魚は季節の野菜や、ダイコンおろしや、香りのある柑橘と一緒に楽しむことにしている。サンマ、鮭、ホッケなどの骨が軟らかくなるほど煮込んだものも好物。鍋なら毎日でもいいと言って笑われたことがある。

私は、生まれ育ちが信州長野県、海のない県である。海を初めて見たのが小学校6年の修学旅行の時であり、海産物といえば塩蔵品か干物だった。みりん干しなどもあった。北海道に来たのは、高校卒業後である。信州ではイカの粕漬は貴重品なので、

母が送ってくれたら、妻がびっくりした。海に囲まれた北海道ではイカは獲れたその日のうちに食べるものだった。

生サンマ姿焼きして小骨取りスタヂ絞りぬ
季節の愉悅

妻は尾を腹と頭は我が取る

サンマ2匹を二人で分けつ
サンマ買ひ旬の魚と妻言ひて

炊き込み飯のレシピを展く
よき型のカレイありしに求めしと

この時季卵充実しけり
仔持ちカレイ満点の味至福なり

資源の保護と適漁にこそ
焼きニシン 大根おろし載せて食ふ

テレビに群来の模様を眺む
いかづちの魚といひしハタハタの飯寿司を

義兄は送り給ひし
魚の骨並ぶる娘我が手筋

いと細かきも向きを揃へて
焼き鱈の身は旨みなし

尾の身噛みこの魚らしさの味に至れり
魚煮て使ひまはして

ダイコンを主婦の技にて仕立てつと妻
ゲテモノと言ひつ

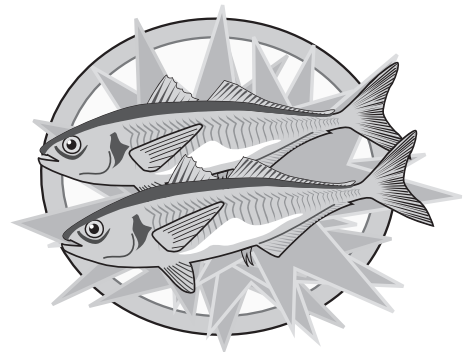
妻は塩ホヤを市場にて買ふ季節のもの
ごろ入りの塩辛嫌ふ

海育ちの妻は我へと今日も購ふ
サバ入荷旬の握りと

すし店のチラシが届き妻は見入るも
ぶりかまが手に入り

今日の買い物はメモと異なる内容となり
アブラコのあらを買ひ来て鍋に煮て

おじやに仕立て朝嗜む



お仕事は？ 趣味は？

帯広市医師会
JA北海道厚生連帯広厚生病院

池田 篤

13年ぶりに北海道に帰ってきた。とは言っても、生まれは広島県である。関東の大学を卒業して、そのまま出身大学の医局に入局した。医師になって6ヵ所の病院に勤務し、10回の引っ越しをして、やっと帰ってきた。たくさんのご支援を頂いて、大好きな北海道に帰ってきた。4年間勤務した札幌で、完全に気持ちは第2の故郷になった。

大学時代にはヨット部に所属していた。勧誘に飲み込まれた気分だったが、関東に出てきたばかりの自分を温かく受け入れてくれて、たくさん面倒を見ていただいた。もともとインドア派なのにヨット部…しかも体育会ヨット部である。幹部になると、学ランを着て「押ッス」と挨拶をした。もともと中学は写真部、高校では帰宅部だったインドア派なのに。

大学を卒業すると、今と違ってすぐに医局へ入局する人がほとんどであった。自分も何科に入局するか迷っていた。外科にはヨット部の先輩がたくさん在籍していた。2科で迷っていたが、先輩方がいたおかげで現在がある。開業に向けていないと以前から思っていたので、医局の指示に従って転勤しながら、たくさん素晴らしい技術を目の当たりにしてきた。

転勤すると必ず困ることがある。住所変更、学会への連絡、引っ越ししましたの手紙の作成、公共料金の変更、病院システムの習得、看護師さんの名前覚え、夕食…これらは、もう慣れてしまった。さらに今は妻がほとんどのことをしてくれる。助かっている。一番困るのは、美容院（散髪屋さんは、札幌で角刈りみたいにされてから行っていない）を決めることである。東京では2件目、神奈川でも2件目、栃木では奇跡的に1件目で気に入った美容院が見つかった。基本的に人見知り傾向がある自分は、女性に切られるのが苦手で、高校時代でも男性スタイリストさんにカットしてもらっていた。なぜか？それはあまり弾まない会話に原因がある。「お仕事何しているんですか？」とか「趣味は何ですか？」とか、初めに切り出されてくる夜のお店のような会話が苦手なのである。だから夜のお店も好きではない。

帯広に引っ越しが決まって、3月末ぎりぎりに栃木でなるべく短くカットしてもらったが、いよいよ帯広在住3ヵ月が近くなってくると、美容院に行かなくてはならなくなってきた。今はネットで調べて、スタイリストさんを指名して予約ができるので非常に楽になった。口コミもある。丹念に調べて予約申

請したが、1件目は予約できず。2件目で予約ができた。時間指定もできるので、時間ちょうどに臨戦態勢な気分で駐車場に車を止めた。こじんまりとした個人経営の店であった。店長さん(一人で経営)がスタイリストさんで、柔らかな言葉づかいで、くるくる回る椅子に案内してくれた。

まずは、問診が始まる。「前はいつ切りましたか？」「どういった髪型がいいですか？」「もみあげはどうしますか？」。これに対して要望をお伝えして、すぐにカットが始まった。非常にいい滑り出しである。カットが進んでいくと、いよいよスタイリストさんの情報収集が始まる。

「何されているんですか？」

キタ——(°∩°)——!! 嘘をつく訳にもいかないので「帯広厚生です」と伝えると「先生ですか？何科ですか？」。あー始まってしまった。さらに「〇〇科の△△先生とかー、看護師さんとかー、来てくれているんですー」。個人情報漏洩が始まる。あー無い。「趣味は？」。あー無い、取りあえず「旅行」と答えた。「へーそうですか」と言われて、話が終わってしまった。

私にとって美容院の楽しみは、洗髪後のマッサージにある。いろいろと言われたけど、スタイリストさんは私の肩を触った瞬間に「肩凝ってますねー、すごいですよー」と診断してくれた。屈強なスタイリストさんだった。よしこれはいいかも、と思っっているうちに、マッサージは終了した。診断だけ付けられた残念な凝った肩のまま、4,000円を初回限定ネット割引で3,500円にしてもらって家に帰った。厳正なる審査をしてもらうために、妻に髪型の写メを送った。かなりの高評価であった。次回、4,000円を払ってその美容院に行くか、別の美容院に行くかまだ迷っている。タイムリミットまで2ヵ月を切ってしまった。

こんなことを感じながら日常を過ごしておりますが、新たな環境に感謝しながら日々精進してまいります。最後に、私を受け入れてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

ソフトボール

札幌市医師会
表参道ペインクリニック

大森 英哉

ノックされたボールが飛んでくる。ダイビングキャッチは無理と判断してバウンドに合わせ捕球したところ「諦めるのが早い。もっと前に出なきゃダメだろ」。久しぶりに怒られました。学生時代、球技という球技はほぼ人並み以上に上手と言われていたこの私が。怒っているのは御年75歳の通称前さん。ひよんなことから社会人ソフトボールチームに所属することになり、日曜日早朝銭函小学校のグラウンドでキャッチボールから始まり、トスバッティングのあとノックを受けて2年になります。中学時代、韋駄天のセンターで1番バッターだった私も年齢が50をとくに過ぎ、大学時代のアイスホッケーはさすがに心肺能力がついていけず、なにかゴルフ以外のスポーツをしなきゃと思いながら、また高齢者相手の診療会話で常日頃、体動かさなきゃボケて寝たきりになりますよと脅していたのに、自分自身はさりとて今さらフィットネスはつまらなくて長続きしそりもないしマラソンなんてもっての外と思っていたので、ソフトボールの話が来たときは酔いも手伝ってか「僕、チームの即戦力になりますよ」と根拠のない自信を口にしていました。チームは半分が40歳以上のベテランが多く、昔の野球経験者は居るものの、前さんはじめみんな肩は弱く、足ももつれフットワークは今一つでした。仕事も年齢もさまざまで、会話も大してしないチームだけど、連帯感だけは不思議とあって、やっぱりチームスポーツは楽しいです。

それにしてもソフトボールは難しい。野球と変わらないと思っているみなさん、まずは遊びのソフトボールと違って、本格ソフトのピッチャーが投げるボールは体感速度が違います。下から浮き上がるような速球や変化球を混ぜられると、球にまず当たりません。

外野のフライも、伸びたり失速したり風で切れたりして緊張します。試合はソフトボールのメッカの石狩スポーツ公園でしており、ガタイの良い若者が混じっている対戦チームはさすがに走力、打力があってかないませんが、今年は20代の若手2人がチームに入ったせいか善戦はしています。勝ち負けはともかく1球1球に集中し、打って、走って、守るソフトボールは面白いです。たまにヒットを打ったり、懸命に走って内野安打になったり、難しいフライを捕るとチームメイトみんなにナイスナイスと言われるのは、いくつになっても気持ちがいいです。泥だらけのユニフォームをこっそり洗濯機に入れて嫁に怒られながら、そして翌日は全身筋肉痛で階段の昇降がきつく、どこかに良いペインクリニックがないものかと思うことを繰り返しています。

ブルースがたまらない

札幌市医師会
札幌西円山病院

浦 信行

音楽が大好きで、高校生の時には札幌交響楽団の定期演奏会には毎月行っていました。その後、大学卒業まではJAZZにはまり込み、少ない小遣いで買ったディスクも100枚を越えました。しかし、もともと高尚な音楽の趣味を持つ人間ではなく、臨床で多忙になるとポップスやロックン・ロールに走り、現在に至っています。本来、ビートルズの大ファンであり、ほとんどすべての楽曲は理解している自信があります。50歳も過ぎてやや時間的に余裕ができると、ブルースやロックン・ロールのルーツをたどるようになり、1950年代の曲を探すようになりました。

『Money』という曲は、ビートルズのカヴァーで知りました。ずいぶんとノリがよくグルーブを感じさせる曲であり、好きな曲の一つです。オリジナルは1960年のBarrett Strongのものですが、さほどよさを感じませんでした。逆にビートルズのカヴァーバージョンが、いかに洗練されたロックン・ロールであるかが認識できました。その後、John Lee Hookerがビートルズのカヴァーを1965年にカヴァーしたものを聞きました。これがオリジナルかと思うくらい、ブルースを感じさせる名バージョンでした。まるで先祖がえりをしたように、単純で力強いビートの繰り返し。コードはわずか1つでやっていますが、それがむしろグルーブを感じさせるのです。

もう一曲『I just want to make love to you』は、1960年代のローリング・ストーンズのライブのDVDが最初でした。アップ・テンポでノリが良く、ブルースの香りは感じますが、かなりポップな印象でした。その後この曲が1954年のMuddy Watersのものがオリジナルだということが分かりました。本名はMcKinley Morganfieldですが、芸名を“泥水”にしたシカゴ・ブルースの親玉です。Muddy Watersと言えば『Hoochie Coochie Man』や『Got My Mojo Workin'』が有名で、彼の晩年でもライブで必ず歌っています。それに比べて『I just want to make love to you』は重くて、単純で、彼の出身の南部のミシシッピのカントリー・ブルースの味わいがベースにある楽曲です。しかし、Muddyの力強く重厚で、ねっとりべたつくような歌に、Little Walterのスリリングでエキサイティングなマウス・ハーブが絶妙にからみ合い、シカゴの貧民街のビルの谷間の雰囲気も感じさせます。

ブルースとは何か。その答えは偉大なブルース・マンのJohn Lee Hookerの言葉が十分に言い表していると思います。彼曰く「ブルースは男と女の中に生まれた。女たちがいて、男たちがいて、ブルースがある。それは愛と嫉妬の歌だ。この世の始まりからブルースはあった。人間とは何か、それを歌うのがブルースだ」。

当院の国際化

帯広市医師会
北斗病院

坂東 伸幸

帯広市にある当院には、多数の外国人職員がいます。初期研修医8名中5名が中国人医師で、いずれも日本の医師免許を取得しています。また、ロシア人整形外科医や事務職員も在籍しています。さらに、手術室スタッフは16名中8名が外国人で、そのうち6名が中国人看護師、2名がフィリピン人看護師です。以前はインドネシア人の看護師も多数いました。皆、真面目で一生涯懸命です。一方、当法人は、ロシア極東ウラジオストクに北斗画像診断センターを開設し、次は北斗リハビリテーションセンターの開設準備中のため、ロシア人医療関係者の来院も多く、院内はまさにInternationalといった感じです。

先日、日本語がほとんど分からない中国人が、末梢性めまいで入院しました。耳鼻科病棟の中国人看護師が付いて、耳鼻科研修中の中国人研修医に中国語で診察してもらいました。端から見てみると、ここは中国かと思っただけでしたが、患者はとても安心した様子で、すぐ回復しました。以前、観光がてら当院に検診に来たロシア人がいて、FDG-PETで偶然、甲状腺癌が見つかりました。ロシアでは甲状腺全摘術が標準術式のため、希望して当院で甲状腺半切術を受けることになりました。手術のムンテラや周術期の対応など、ロシア人事務員に対応してもらったので、入院中全く問題はありませんでした。話を聞くと、以前シンガポールの病院で心臓を診てもらったとか、奥さんはドバイの病院で手術をしたなどと話していました。ロシアの富裕層は、良い医療を受けるためであれば、世界中どこにでも行くのが普通のようなものでした。しかしながら、韓国の有名病院で手術したが、調子悪い、再発した、どうにかならないかなどの問い合わせが、海外から国際医療サービス会社を通じて多数当院にきています。

十勝には海外からの観光客、JICAの農業研修生、留学生などが来ていますが、札幌やニセコ周辺では数十倍外国人が多いと思われ、これから外国人を診察する機会がますます多くなってくると思われ、日本の高度な医療機器、技術、そして「おもてなし」の心を持って、多くのアジアの患者を治療できれば良いと思っています。ちなみに、当院耳鼻咽喉科の診療内容を英語で記載したブログを立ち上げ、<http://www.hokuto-oto.info/>で公開しました。

学会で見つけた 不思議な類似

札幌市医師会
札幌宮の沢病院

笹岡 彰一

昔のことですが、岐阜市での学会へのアクセス方法を調べていて知ったことがあります。

北海道から岐阜へは、当時は小牧空港（名古屋空港）が玄関口でした。空港からバスで名古屋へと南行して、名古屋から鉄道で北西方面の岐阜市へ行くのが通常の手段でした。高速道が完成するまでは、バスは渋滞で遅れることが多かったので、別の手段はないかと探していました。地図を見ると、空港からほぼ真北に犬山市、犬山市の西に岐阜市が位置しているのが分かります。しかも、このあたりは名鉄の路線が網羅しています。ローカル路線の乗り継ぎには不便はあるとしても、犬山の駅の近くには国宝の城や茶室があり、乗り継ぎ時間に余裕があるなら、寄ることができます。つまり、交通機関を利用して三角形のどちら回りでも行けるのです。

犬山と岐阜とは各務原線かかみがはらが結んでいます。途中通過する各務原市内に六軒駅と二十軒駅を見つけました。誰でも気付くでしょうが、札幌市西区には八軒と二十四軒があります。何かしらの関連を疑いたくなりますね。

各務原の六軒、二十軒は近隣の民家の数に由来したようです。特に二十軒は中山道の旅人が休む立場（たてば）が作られた地ですから、民家20軒はかなり昔の話かもしれません。一方、札幌の歴史では、山鼻に入植した50戸の集落が都市開発のため分散しました。6戸は円山へ移住し、残り44戸が移住した集落の戸数に応じて、八軒、十二軒、二十四軒の地名になりました。十二軒は宮の森の旧地名です。また、入植者は主に新潟からで、岐阜県各務原との接点は見つかりませんでした。

単に地名が似たというのが真相なのでしょうが、今でも名古屋へ行くと、名鉄駅で路線図を見ては気になります。ちなみに三重県松阪市にもJR六軒駅があり、戸数に応じた地名は他にもあります。それでも、六軒・二十軒と八軒・二十四軒はそれぞれ近い距離にある地名であり、意図があって命名したのではと思わせる微妙な数字の違いもあって、偶然の不思議さを感じます。現在の玄関である中部国際空港からは、岐阜まで名鉄が直通して、便利になりました。小牧空港だから気付いた些細なことですが、発見は学会へ行く計画をするときから始まっていたのです。

運転していて思うこと

帯広市医師会
JA北海道厚生連帯広厚生病院

紺野 拓也

北海道大学整形外科の医局人事で帯広に来て3年目になろうとしています。私の勤務する帯広厚生病院は十勝医療圏35万人の3次救急を担う地方の中核病院であり、私は整形外科医として主に外傷に携わっています。十勝は十勝型事故という言葉があるほど、交通事故の多い地域でもあります。最近では車の剛性が高くなったせいか、車は大破しても、乗っている人は無傷ということも多くなりましたが、私の個人的な印象としては、バイクと軽自動車の事故は普通乗用車に比べると重傷になる傾向のように感じます。そんな私も整形外科を志す前、関東の病院で臨床研修医をしていた時は、400ccのバイクと軽自動車を足として使用していました。今でも十勝晴れの日にはバイクに乗りたいという気持ちもありますが、事故を起こした時の仕事に与える影響を考え、じっと我慢をしております。

私は帯広に来る前の2年間、片道40分程度の自動車通勤をしていましたが、運転のマナーについて考えさせられることがあったのでいくつか紹介したいと思います。まず、ブレーキを踏んでからウインカーを出す人は何も考えていないと言わざるを得ません。ウインカーは方向を変えることを周りに知らせるために出すものなのに、ブレーキを踏んでから出すのは全く意味がなく、こんな愚かな車に追突した場合に、前方不注意と言われても納得できるわけありません。他には、2～3車線ある道路の右の車線をゆっくり走っている車は邪魔なので左の車線を走ってください。基本的に2車線の右は追い越し車線とっていますが、そこをノロノロ走られると先に進みたい車をブロックすることになり、後ろの車もイライラするし、車の流れも妨げます。そのうち右折するつもりだからと何kmにもわたって右車線を走行している方は、車線変更が自在にできないのであれば、自動車の運転はしない方がいいと思います。学生時代、アメリカで運転する機会がありました。向こうでは、後方に自分より速いと思われる車が来た場合、よけて先に通そうとしてくれます(煽られるからかもしれませんが)。そのため、非常に快適に自分のペースで運転することができました。最近では高齢者の運転による事故が問題となっています。確かに認知機能の低下による問題もあるとは思いますが、運転中、頭を使って、周りのことを思いやるような運転ができれば事故は減るのではないのでしょうか。そして整形外科医の過剰労働も減ると思います。

ほとんど愚痴のようになってしまいました。乱筆乱文お許しください。

2回の白バイ体験

札幌市医師会
NTT東日本札幌病院

宮本 憲行

とあるメーカー主催の研究会が品川であり、タクシー移動で冬と夏に白バイにお世話になりました。2回とも札幌からの飛行機が遅れ、黒いタクシーに乗ると「一般道で行きますよ」と告げられて、土曜日夕方の渋滞している高速道路を横目に、順調に進んでいました。

1回目の冬は、交差点の赤信号で停止した時に2mほど停止線を超えていました。その時すぐ横に白バイが止まり、窓ガラスをノックして「どこに止まっているんだ。停止線が見えないのか！」といきなり怒鳴られました。赤信号の間中、嫌味なことを言われましたが、信号が青になるとお咎めなく解放されました。ちなみに停止線オーバーも信号無視、あるいは交差点等進入禁止違反で反則金等が課せられることがあるそうです。

2回目の夏は、なぜか中央側車線が空いていて、一般道で90km近くで進んでいました。周りを見ると、歩道側車線を走る車は規制速度でのんびり走っているようでした。すると突然サイレンが鳴り「そのタクシー、止まりなさい」と拡声器で呼び止められました。路肩に停車すると白バイの警官が降りてきて「スピード違反です。降りて速度を確認してください」と運転手さんに告げた後、後部座席の私に向かって「すぐに済みますから、そんなに時間はかかりません。安心してください」と笑顔で説明してくれました。運転手さんは慣れているのか「メーター止めておきますね」と言って白バイに向かい、すぐにタクシーに戻りメーターを戻して研究会会場のホテルまで時間に間に合うように到着しました。ホテルまで白バイが追走して、駐車場で改めてスピード違反の書類を作成することになったようです。私は決して「急いでください」とか「〇〇時に開会なのです」等、急かせる発言はしておりませんが、急いでくださいオーラをたくさん出していたのかもしれない…。運転手さんに少し申し訳ない気持ちになりました。30kmオーバーだと赤切符になってしまい、免停になるとお仕事に支障が出ることになってしまいます。何とか30km未満で済んでいますようにとお祈りしました。

白バイも運転手さんも乗客優先で対応していただけたことにはとても感謝していますが、精神衛生上はあまり好ましい体験ではなかったと思います。次にこのメーカーの研究会が品川であるときには、電車にするか、黒くないタクシーに乗ることにしようと思いました。

『あしたのジョー』とその時代

札幌市医師会
村形耳鼻咽喉科

村形 寿郎

森彰英著の題名が目にとまり衝動買いしてしまった。『あしたのジョー』とは小学生の時分にテレビアニメで出会い、単行本、映画とすべてを制覇した唯一の漫画である。実際にこの漫画を見たことがなくても、その名を聞いたことがない人はいないであろう。そこで、独断と偏見でこの作品についていくつかのポイントを挙げてみる。

1. タイトル

原作者梶原一騎の当初の案は『四角いジャングル』、主人公の名前は「矢吹サトル」であった。しかし、漫画家や編集者から異論が起こる。『四角いジャングル』から『一発屋ジョー』『明日のジョー』、そして『あしたのジョー』となり、矢吹丈が誕生した。もし、タイトルや主人公名が最初のものであったならば、ボクシングを題材とした単なるスポ根ものになり、今も語り継がれる不朽の名作となったかどうかは甚だ疑問である。

2. 師弟関係

師弟のドラマは少年院時代に始まる。始めは丹下段平が作った『あしたのために』をテキストとした通信教育講座だった。それはカリキュラムが進むにつれ、直接指導に変化していく。突然師匠が他の選手に目をかけているように見せかけて冷たく接した『あしたのために その6』の完成は、この作品の中では珍しくウェットなシーンである。

3. 減量

永遠のライバル、力石徹とのドラマは、実は漫画家ちばてつやの勘違いから生まれている。原作を読んだ印象から堂々たる大男に描いてしまった。これが、力石徹を死まで導く過酷な減量に結び付く。今では、彼の減量シーンのないストーリーは全く想像がつかない。

4. 女性

財閥令嬢として登場した白木葉子。次第に運命の女としての存在価値を高めていく。ジョーに向かって「力石君のためにも、あなたはリングで死ぬべき人間なのよ」と。ジョーが向き合っていた死というテーマが彼女の言葉で明確になり、ハッピーエンドが予想できない。

漫画に限らず、これほど悲劇性の高い物語を私は知らない。人間の葛藤や感情の揺らぎを表現した点では純文学的であり、人間の生と死に直面させられる点においては哲学的な作品であると思う。五十路を過ぎた今、もう一度読み直してみたくなった。

今の医療に思うこと

札幌市医師会
独立行政法人地域医療機能推進機構北海道病院

古家 乾

昨今の医療の管理は、医療の質向上に寄与することはもとより、経営、医療安全、感染対策、医療倫理、BCPを含む災害対策、医療者の労働環境、教育、地域包括ケアシステムと地域医療データのICT化など、どのように分類していいのか戸惑うほど広範囲に渡っています。また一部の医療では、AIの方が優れた臨床判断を下すことも証明されています。ロボットが患者さんと会話して、適切な検査法、治療法などを提示し、それを医師が承認する、ということが現実のものになりそうな勢いです。医療のICT化とAIがどのように医療の管理に貢献するのか、あるいは貢献できないのはどのような領域なのかを整理していく必要があると感じておりました。

そのような折、昨年11月NHKで放送された「足元の小宇宙 絵本作家と見つける生命のドラマ」を視聴し、大変感銘を受けました。科学絵本作家と呼ばれる甲斐信枝さんのドキュメンタリー番組でした。甲斐さんは、京都近郊の畑や野草の季節や年余にわたる変化と凌ぎあいのドラマを五感を駆使して科学絵本として描いてきました。この絵本で克明に描出された情景を、高解像度のハイビジョンカメラを駆使して、動画映像による足元の植物の世界を再現しようという試みでした。甲斐さんのその緻密な観察力、表現力と、植物に対する愛情が満ち溢れており、それを高度の撮影技術を用いて完成した映像も非常に優れたものでした。われわれ凡人には、足元の植物にこんな世界があるとは気付く由もありませんでした。対象の植物を患者さんに例えると、「医療者が五感を研ぎ澄まし、人を思いやる心」が正に現在の医療においても必要なのではと、目から鱗が落ちるような感覚でした。

ICTやAIが進歩することは必然ですが、人間の本来の能力が退化していくことだけは防ぐ必要があると感じております。

着眼大局・着手小局

札幌市医師会
篠路整形外科

池本 吉一

プロの将棋棋士の羽生善治氏が、1996年に史上初の竜王・名人以下の7大タイトルを独占していた光り輝く業績を挙げていた将棋界は、今や、吹けば飛ぶような状況になりつつあった。そこに、史上最年少の14歳の中学生がプロ棋士となり、デビューして以来、公式戦で歴代最多の29連勝をした。その中学生の名前は、今や日本国内で知らない人はいない「藤井聡太」四段である。

ところで、欧米企業がAI(人工知能)ソフトの「アルファ碁」を開発し、昨年、世界トップクラスのプロ棋士と対戦して勝利したニュースが世界を駆け巡ったことをご存知でしょうか。そのソフトは、今までの世界トッププロの指し手のデータを大量にコンピューターに学習させ、相手の特徴から自動的にルールやパターンを導出するディープラーニング(深層学習)技術なるものを駆使して、コンピューター自身に囲碁をさせるといったものだ。AIとは、今から60年前にアメリカの計算機科学者で、認知科学者のジョン・マッカーシーにより初めて提唱され、数理論理学を使って知識を表現することに成功したといわれ、以後、この方面の学者たちにより、いろいろと変遷をたどった。そして、脳神経細胞を模してニューロンやシナプスをモデル化したニューラルネットワークという技術にまで高められ、今日では、情報処理の中核を担っている。当然、この技術は将棋の世界にも応用されていて、2年前に、竜王、名人戦に代表される7大タイトル戦に加え、正式な8番目のトーナメントの叡王戦が発足した。これに優勝した棋士がコンピューターと対戦する電王戦で、昨年は、日本のトップクラスの棋士が惨敗するくらいのレベルに、知的ゲームソフトを作り上げてきているのが実情のようだ。藤井四段も、昨年ぐらいより、このゲームソフトの繰り出す手を研究しているという。

このAI、実は、ほかの分野にも使われている。例えば自動車で、まだ初期の段階だが、車の自動追従や自動ブレーキに代表される自動運転システムは、車に搭載されているカメラや各種センサー、半導体にAIソフトウェアを介して、走る、曲がる、止まるという車の操縦に関わる認知、判断、制御の機能を進化させようとする技術である。

一方、医療分野でも、AI技術が浸透しつつある。例えば、病気の診断に欠かせない画像診断においては、経験豊かな放射線科医師の手掛けた過去の膨大

な診断画像をAIに取り込ませ、人が行なう診断能力を高めようとする試みである。今や、医師のエラーレートを下回るところまで来ているようだ。

『着眼大局・着手小局』。第二次世界大戦前後に活躍したプロ棋士の升田幸三氏が、好んで色紙などに書いた言葉である。その言葉は、「視野を広く、盤面の隅々に遠く大局を眺め、行動においては、一手一手、身近な小さいことを着実に行なう」という意味が込められ、日常の行動にも全く当てはまりそうな金言であるが、まさに将棋の極意である。この大局とは、プロ棋士が、対局の持ち時間を使って、100手以上も先読みして次なる一手を指すことに他ならないのであるが、先読みを短時間に1,000手以上もできるAIソフトを使えば「アルファ碁」で起こしたことを将棋の世界にも起こせるということである。

羽生善治王座は、東京大学工学部の松尾豊准教授との間で、AIが及ぼす現実社会への変化とその未来について対談している。確かにAIソフトは、過去のプロの対局の膨大なデータベースから複雑な局面での優劣を見極め、形勢を局面ごとに数値化するまでに至っているのは目を見張るものがある。盤面全体を見渡して、究極の一手を繰り出しているかのようだ。しかし、現実には、データの元となった対局は機械がやったものではない。集中力や冷静さなど感情要素が当然入るわけで、過去の有力棋士の有限の情報処理能力しかないAIには、人間世界の無限の突発的な現実の問題には対応できずに劇的な終局を迎えることもある。これを、AI研究における最大の難関で、フレーム問題というそうだ。羽生王座や渡辺明竜王は15歳で、また史上最年少の21歳で名人位となった谷川浩司九段前日本将棋連盟会長は14歳8ヵ月でプロ棋士の四段に昇格したわけで、過去のいずれの中学生棋士は皆、AIの力を借りずとも、日本の将棋界に偉大な業績を上げていることは紛れもない事実であろう。藤井四段の連勝は途切れてしまったが、今後の日本の将棋界を大いに盛り上げていくことは間違いなく、将棋ファンならずとも、このAI時代の申し子の将棋からは、目が離せなくなるだろう。

(平成29年7月記)

(参考文献)

ビジネスパーソンのための決定版人工知能超入門
2016年11月24日発行 東洋経済新報社編

随想

札幌市医師会

高岡 和夫

何とかチルドレングループの話題で、TVのワイドショーは毎日盛り上がっています。「This is 敗因」と呼ばれた4人に続いて、当選2回の某二世衆議院議員が、某総理の応援演説に対し「辞めろ」とコールした人を、共謀罪（テロ等準備罪）で逮捕すべしと求めるフェイスブックに“いいね！”と賛同したことが報道されました。議員は「間違っって押しってしまった。今後気を付けたい」と“いいね！”を取り消したそうです。言われて取り消せばよいというものではないでしょう。さらに、この某代議士の親分格が代表を務め、閣僚の3/4が属する某集会の大政翼賛会化が懸念されている中、その末端議員がつい本音を漏らしてしまったのであれば、今回は、たまたま軽率者がいたから為政者の本音を垣間見ることができたのかもしれませんが。

さて、一般にどの職業でも、資質と適正には個人差がありますが、個人の努力で不足分を補いつつ、職務を通じて進化発展を遂げます。話題に上る代議士先生たちには、その努力が足りないのでしょうか？ そもそも資質欠如なののでしょうか？ しかし、現状では、職業選択の自由があり、年齢制限さえクリアすれば誰でも議員になれます。

今日、多くの職業に国家資格を与えて、その水準を保持しています。同様に、議員に立候補するための国家資格制度などいかがでしょうか。昨今は、政治を担う覚悟も無しに親の七光りのみで、取り巻きに担がれてしまった二世三世議員も多いようです。まともな政策議論をせず他候補の批判に明け暮れ、人気投票で当選する議員も多数いるように思われます。そのような茶番な選挙に何百億円もの税金が使われています。また、村度好きのイエスマンばかりで頭数を揃えるだけなら代議士の数は半数ぐらいでもいいのかもしれませんが。最低限の政治、経済、法律、社会、歴史等の知識を確認し、論文審査を行うだけでも、安易な立候補の抑制になる可能性があると思います。採点はコンピューターで行い、試験終了後に試験問題と解答を社会に公表し、評価結果を受験者に報告すれば、また、陪審員制度のように国民から任意抽出した複数の審査員が試験を監督し、論文を評価し、立候補時に審査論文公表を義務付けると、種々の平等性を担保し、ある程度の人物・能力評価も可能になると思います。軽率な正直者は減るかもしれませんが…。

何らかの選挙制度改革を行わないと、民意を反映した信頼に足る政治が、ますます遠のいていきそうです。

塀の中で思うこと

札幌市医師会
札幌刑務所

能登 啓光

私が刑務所で勤務して6年が経ちました。応募した理由は、望まれて仕事ができる職場で働きたかったからです。ここに就職するまでは「医療費がかさむのは医師が多く、仕事をし過ぎて、処方薬と検査が多すぎるためだ」と言われることに矛盾を感じていました。また、患者様と言いたくありませんでした。敬礼する、きりりとした世界に憧れていました。

他人に職場の名前を告げるとドキリとされます。恐ろしそうですが、実態は役所の一つであることを知りました。犯罪者のために勉強して働くのは馬鹿馬鹿しい、空しいと思うかもしれませんが、回り回って国民のために働いているのです。誰かがしなければならぬ仕事であると、誇りに思っています。ちょうど国選弁護人と同じです。わずかばかりの使命感を持って応募しました。ここで勤務し続けることが善であると思っています。

ここでは歴戦のつわものを相手にします。心身が強くなければ勤まりません。男性ばかりを診察し、家庭医のように何でもある程度できる人でなければ勤まりません。

尊敬されない、ありがたがられない、給料が安い（社会の70%）と言われていています。全国の矯正施設の医師定員は328人ですが、実数は254人しかおらず、常に不足しています。医師が応募してくることは稀であり、とても大切にしてもらっています。ただ、採用時面接の時に告げられたように、ここは病院ではありません。医療に関する医師の意見も、刑務所組織の中で翻弄されます。医務は少数派のためなのか、情報がスムーズに伝わってきていないと思います。

収容者の話によると、札幌刑務所は「暖かい」「食事がうまい」「収容者を大切に」「新築で綺麗」と、良いことづくめのようです。出所する時「お世話になりました。また来ます」と言って、本当に3ヵ月後に入所してきた人がいました。懲役とは言いますが、全く懲らしめになっていません。収容室にテレビがあるなどとは、社会の納税者には絶対に言えません。

ドイツでは、貧困が原因の犯罪は罰さないといえます。わずかな無銭飲食と窃盗で入所しても、一人を一年間世話するのに300～500万円かかるそうです。入所の代わりに、社会奉仕をさせた方が良くと思います。

二泊三日

札幌市医師会
札幌市医師会夜間急病センター

柳瀬 義男

ここのところ、少し休みができたので、二泊三日の旅にでも出掛けようかな。国内旅行なら京都か九州、国外なら韓国、東南アジアといったところか。一人じゃつまらないから、職場のA子さんでも誘ってみようかな、ウシシシ。二泊三日というと、普通はこんなことを考えるだろうが、別の二泊三日ってのがあるのをご存知だろうか。これは今から50年近く前の、ある大学生のお話。

1969年、当時の大学キャンパスは、大学管理法粉碎、日米安保改定実力阻止などをスローガンにして、過激派学生が大学施設を占拠するなどして、騒然とした状況にあった。折しも11月には、佐藤栄作首相が日米安保条約改定で訪米する政治日程が迫っていた。

安保条約反対街頭デモの前日の集会で、情報系の学生がメンバーの学生たちにこう伝えた。

「県警は明日のデモで、4人ばかりパク（逮捕する）という話だ」

こうした情報は、公安警察から街のチンピラ連中などに流され、そこから付き合いのある学生に伝わるというもので、結構正確なものとされていた。

男は隣の学生に尋ねた。

「パクられるって、何日くらい喰らい込む（留置される）んだ？」

「市内の街頭デモくらいなら、せいぜい二泊三日ってところさ」

警察に逮捕された場合、まず48時間は留置所に収容されるが、街頭デモなどの軽微な案件では、それで釈放されるのが通例とされていた。

翌日、街頭デモの先頭に立った男は、機動隊のジュラルミンの盾で押し倒され、殴られ蹴られた揚げ句、公務執行妨害容疑で逮捕され、県警中央署の留置所に放り込まれた。

部屋には、男女関係のトラブルで相手を殴ったという暴行傷害容疑のチンピラ風の男と、収賄容疑の県庁の課長補佐だという中年男の、二人の先客がいた。

「おめえ過激派学生だな。親のスネかじってるくせに、ケッ、結構なご身分だぜ、まったく」とチンピラ風は言った。中年男は、ただニヤニヤと笑っていた。

翌日、取り調べが行われた。担当の刑事が尋ねた。「姓名は？ 住所は？」

「黙秘します」

「フン、カンモクか」

カンモクとは、完全黙秘の略語で、逮捕された場合、カンモクを通すのが学生運動仲間の決まりだった。刑事はせせら笑って言った。

「君はB男君だろう。君のことは、家族構成や友人関係、組織のメンバーに至るまで、全て把握しているんだ。コーアン（公安警察）をなめちやいかんよ。部屋で頭を冷やすんだな」

取り調べは15分ほどで終了した。

翌々日、そろそろ48時間が経過する。男は中央署から、デパートの裏に位置する地裁に連行された。手錠に腰縄を付けられた姿を見た子どもが「あの、悪いことしたの？」と母親に尋ねていた。地裁の判事は初老の男性で、ニヤリとしてこう言った。

「二泊三日で出られると思っっているんだろうが、今度はそうはいかないんだよ。10日間の勾留！」

男は留置所に戻された。刑事訴訟法では、48時間の取り調べ後、容疑が確定しない場合は10日間、さらに10日間の勾留延長が認められるのだ。

部屋に戻ると、チンピラ風が言った。

「おめえ出戻ってきたか。いいざまだぜ、まったく、へへへ…」

夕食の時間となった。ほとんど味のない味噌汁。キャベツと人参など野菜の煮物少量、それに沢庵二切れと麦飯の貧しい夕食を済ませると、便意をもよおしてきた。用便を済ませると、尻を出したまま男は叫んだ。

「看守さーん、4号室で一す。お水お願いしまーす！」

留置所では、各部屋は24時間看守に監視されており、便器も看守から丸見えで、頼まねば水洗の水を流してもらえないのだった。あと10日だろうか、20日になるのだろうか。男は便座にしゃがみ込んだまま、ガックリとうなだれたのだった。

これは今から50年ほど前の話で、街頭デモで留置所に放り込まれた男は自業自得なのである。

だが、今年（2017年）、「共謀罪」法が国会を通過成立し、施行される運びとなった。これからはデモに加わらずとも、計画に加わったという容疑だけで逮捕されるかもという。この国は一体どうなっていくのだろうか。

恥ずかしながら

札幌市医師会
アリオ札幌耳鼻咽喉科クリニック

堂坂 善弘

昨今、大きな社会問題となっている特殊詐欺だが、さまざまな対策を講じても一向に減らないという。個人的には、独居の高齢者が狙われている印象を持っている。そう考えたきっかけは、昨年、実母が認知症と診断されたことである。

実家は北見郊外の農村地帯にあり、母は父の死後、15年以上一人暮らしを続けていた。バスも1日3回しか通らない。隣の家に行くのも車で行くような田舎だ。

お盆に帰省していた時に、たまたま実家の固定電話が使えなくなった。調べてみると、料金が引き落としできなかったためと判明した。不審に思い預金通帳を見せてもらおうと、残額がほとんどないので驚いた。遡って調べると、2年ほど前から急に金遣いが荒くなり、みるみる残高が減っていた。一人暮らしの老人が、どうしたらこんなにお金を使うのか分からない。

家中を搜索すると、出てくるわ出てくるわ、封も切っていない大量の健康食品やサプリメントの容器。一つの値段が1万2千円とか1万8千円もするものが一種類につき5本もあり、それが10種類以上もある。さらにはメガネがタンスの中から8個もでてきた。額面6万5千円の領収書が3枚見つかった。旭川の眼鏡屋が訪問販売したものらしかった。

1980年代に起きた豊田商事事件を思い出した。それと全く同じではないか。田舎の独居の高齢者に言葉巧みに近づき、不要なものを購入させる。相手が認知症なら、赤子の手をひねるよりも簡単だろう。

母を札幌に引っ越しさせ、弁護士にも相談したが、回収は諦めざるを得なかった。

報道されるような特殊詐欺は、氷山の一角に過ぎない。よりタチが悪い詐欺師は一度に高額を取るのではなく、少額ずつ、生かさず殺さず反復して搾取し続ける。悪徳商法の情報は消費者庁HPに公表されているが、訪問販売の無法状態は実質的に放置されているに等しい。被害を考えれば訪問販売に対して何らかの規制が必要ではないだろうか。

親の認知症は緩徐に進行するため、なかなか気付かない。独居の親ならなおさらだ。おかしいと思った時には、すでに手遅れということになりかねない。日頃の注意深い見守りが大切だろう。

2017年5月1日開院しました。

札幌市医師会
肝臓クリニック札幌

川西 輝明

いつも大変お世話になっております。今回、私事ではありますが、クリニックを開業することとなりました。この間お世話になった先生方、関係者の皆さんに本当に感謝しております。

「肝がんの不安がなくなる世の中を目指して」をテーマに、いろいろなことを試みてきました。肝がん検診、医療講演、啓発活動、ティッシュ配り、街頭署名、行政へのお願い、議員さん巡りなど。自分にできることはなんだろうと自問自答しながら、思いついたことをしてきたという感じです。いろいろなところに行って、いろいろな人たちに出会って、また、いろいろなことを知ることができ、勤務医としては不思議な働き方で、周囲もびっくりしているようなところがありましたが、今回、もっともってことを追求していく形として、開業にチャレンジしてみようと思いました。諸先輩方の苦勞を聞いてきていたので、本当に大変だったところと、自分の思い通りにできる部分との兼ね合いを上手く取りながら、これからも頑張っていきたいと思います。

診療内容としては、肝臓が専門で採血検査、エコー、CT、上部消化管内視鏡を中心に診療を展開しています。B型・C型のウイルス性肝炎がほぼ治癒していく時代になり、患者さんの笑顔が増えることとなってくれたことは、とても嬉しい出来事でした。そして次は脂肪肝炎対策が重要となっており、症状のない臓器である肝臓を大事にして、元気で長生きにつなげてほしいと願いつつ、診療を継続していきたいと思っています。

またこれからも、肝炎ウイルス検査や医療講演、肝がん検診団の行う肝がん検診の支援など、さらに充実させていけたらと思います。

そして、患者さんたちとのつながりも強くして、患者さんたちにスタッフも育ててもらうことも必要なことだと思っています。

とりとめもない内容となってしまいましたが、これからも皆さんに教えていただきながら頑張っていきたいと思っています。何卒よろしく願いいたします。

肝臓について、あれって思うことがあったら、気軽にご相談いただければ幸いです。

2年目、10年目、 そして20年目の姿

札幌市医師会
手稲溪仁会病院

中野 貴明

このたび、北海道医報「会員のひろば」への原稿執筆の依頼をいただきました。たくさん先輩方が手に取る本誌に原稿を執筆させていただくのは大変恐縮ですが「広く新鮮な投稿を」との本企画の趣旨に則り、私が日々の仕事の中で感じたことを自由に書かせていただきたいと思います。

私は小さい頃からサッカーが大好きで、将来はプロのサッカー選手に、と夢を見ていたこともありましたが、あいにく実力が伴わず、プロのサッカー選手にはなれませんでした。今でも時間があればフットサルなどでボールを蹴るのが趣味になっています。

思えばサッカーをやり始めて間もない頃、技術は当然未熟で、コーチによく怒られながらサッカーをしていました。練習をして学年が上がるにつれて、リフティングが100回、200回と回数が増えたり、少しずつ自分が上手くなっていくようになりました。サッカーをやって10年くらいになると、サッカーの戦術的な奥深さも分かるようになりました。現在はサッカーを始めて20年近く経ちますが、プロのサッカーの試合を見て、サッカーの奥深さを楽しんでいます。

現在、私は初期研修医2年目で、まだまだ分からないことも多く、指導医の先生方にさまざまなことを教えていただく毎日です。失敗も多く、そのたび気持ちが落ち込むこともあります。心の支えになっているのは、サッカーをやっていた時の昔の自分です。「サッカー2年目の時も自分は失敗ばかりだったし、何も分かってなかったよな」と当時の自分を思い返しなが、失敗から学んで次に活かすことを心がけています。

おそらく医師になって10年目の自分は、専門医になりできることも増え、自分の専門分野についての面白さ、奥深さを感じている頃でしょう。20年後の自分がどうなっているかまでは想像できませんが、自分の夢を今度こそ叶えられるように、日々努力していきたいと思っています。

人生、見取り稽古

札幌市医師会
札幌白石記念病院

野中 雅

脳外科医を目指し、大学脳外科講座に入局して、かれこれ30数年が経過した。仮に医師として働ける年数を45年とすると、15年周期で3度の医師人生があるように思う。

最初の15年、当時の教授の顕微鏡手術に憧れ、早く手術が上手になりたい一心で、昼夜なく働いていた時代である。若い医者が手術の機会を得るのは唯一夜中しかないと、常に臨戦態勢にあったその頃の自分を思い起こす。だが、当時は“手術は見れば分かる”の一言で、今でいう教育というようなものをされた記憶はない。子どもの頃に剣道を習っていたが、その中で“見取り稽古”という練習があったのを思い出す。師範の鋭い動きをすごいとは思っていたが、どうやったらできるようになるのか、分からぬままであった。しかし、見様見真似で15年、なんとか脳外科医として、それなりの手術ができるようになったと思う。

卒後15年、次なる15年をどのように過ごすか、新たな目標の設定を迫られる時期である。私自身はたまたま大学人事の都合で、メスを置き、カテーテル治療の道に入ることとなった。当時は外科医を辞めることに対する不安と寂しさがあったが、新しい領域に踏み出すチャレンジ精神で、15年で何とかものにするのができたように思う。

そして残り(最後)の15年、医師として仕上げの時を迎えている。一体何をしようか？ふと考えている今日である。昔のように一晩中救急患者さんを待てる体力、気力も無くなってしまった今、できることは若い医師に対する教育(知識と技術の伝承)ではないだろうか。昔は“見れば分かる”で済ませていた教育は、今日ではその一挙一動を言葉に変え、理解を得ることが求められる。私自身が患者さんから教えてもらった経験のすべてを、言葉にして後輩に伝えることは、容易ではないが大切なことであると思う。さらに加えて、自分のために何かすることはないかを考えているところであった折も折、入局当時“見れば分かる”と言っていた恩師の講演を聴く機会に恵まれた。バリバリの外科医として定年退職されたが、80歳を過ぎた今、今度は認知症の研究に励まれているとのことであった。なるほど、この先生は己の人生そのものが“見れば分かる”という教育なのだ気付かされた。私の“見取り稽古”はいまだ続いているのだと。私も残り15年、医師としていくらかでも社会に貢献できる仕事を見つけないければならないと、背中を押される講演会となった。